様式第３号(第１２条関係)

会　　議　　録

会　議　の　名　称	第１回吉川市産業振興会議
開　催　日　時	令和６年６月２６日(水)　午後３時００分から 午後４時３０分まで
開　催　場　所	吉川市役所２０３会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興会議委員】 近藤　旭、中村　新一、飯箸　幸弘、西山　亜弥、妹尾　建二、附田 健志、河野　一晃、塩入　英明、井上　義久、道垣内　壮史 川俣　雅代、赤出川 哲宏、小林　千重（産業振興部長）
欠席委員(者)氏名	伊藤　健
担当課職員職氏名	産業振興部 商工課　課長　染谷　憲市 商工課　消費労政係長　野津　晴子 商工課　商工観光係長　東原　拓哉
会議次第と会議の公開又は非公開の別	１．開会 ２．委員委嘱 ３．市長あいさつ ４．会長及び副会長の選任 ５．会長、副会長あいさつ ６．委員および事務局の紹介 ７．議事 今後に向けた事業展開等について (1) ふるさと納税について (2) ガイドブック作成について (3) 産業フェアについて (4) 就職説明会について (5) 高校生職場見学バスツアー等について ８．その他 ９．閉会 ［公開~~・非公開~~］
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	―
傍　聴　者　の　数	２人
会議資料の名称	１．次第 ２．ふるさと納税について ３．ガイドブック作成について ４．産業フェアについて ５．就職説明会について ６．高校生職場見学バスツアー等について

会議録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ☑録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	中村　新一、附田 健志
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	１．開会 ２．委員委嘱 市長より委員を委嘱 ３．市長あいさつ
市　長	本日より新たな委員を迎え会議がスタートする。これまでの流れを説明すると、平成 27年頃に中小企業の振興条例の策定ににについて意見をいただいた。他自治体では中小企業を支えよう、その為の補助をどうしようかという考えの下、条例が作られているが、吉川市においては、条例の意義、あり方などからしっかりと組み立てようと、委員、職員、そして地元の企業の皆様と議論を重ね、単なる中小企業支援だけの条例ではなく、農業を含めて捉え、企業だけが繁栄するのではなく、市民、勤労者、事業者、行政、みんなが幸せになるための条例として産業振興の基本条例を制定した。そうした中、コロナ対策においても、皆さんのご意見をいただきながら、乗り越えることができた。新しい委員は、各分野でトップランナーとして活躍されている方や地域の中で理念を持って様々な事業に取り組まれている方を選ばせていただいた。今後も忌憚の無いご意見をいただきながら進めていければと考えている。
	４．会長及び副会長の選任
事務局	会長及び副会長の選任について意見を求めたが、自薦、他薦は無かったため、事務局より会長に近藤委員を、副会長に中村委員を推薦した。
一　同	異議なし
	５．会長、副会長あいさつ
会　長	会長としては2 期目となる。これまでも、各分野の委員より意見を頂きながら政策が実現され喜ばしく感じている。本日の新聞に興味深い記事があったので紹介する。1つは、大手イオンの人材に関し、特定技能を増やしていこうということで、外国人人材の活用ということが記事になっていた。大手の企業であっても人材が不足している現状で、どう補うかということを考えており、我々中小

	企業にとっては死活問題となってくる。また、最低賃金の50円増が検討されており、経営者としては悩ましいところではあるが、これだけ物価が上がっている中で対応しなければならないと感じる。経営者の皆さんも大きな問題と感じているのではないか。もう一つは、ふるさと納税に関するところで、次年度に、ポータルサイトでのポイント付与を禁止することが記事になっていた。順調にふるさと納税が伸びている中で待ったをかけるような政策が出てくるということだが、あるべき寄附というのはどういうものなのか。自治体の事務費用というものが問題になっているのか感じる。世の中が変化していく中で、我々も対応していかないといけないと思う。ぜひこの場で議論ができればと考えている。
副会長	ものづくり企業を千葉市、飯能市、吉川市とホールディングとして東京で4社の会社を経営している。委員の皆様とはまた少し違った切り口で意見できればと考えている。精一杯務めさせていただきたい。
	６．委員および事務局の紹介
事務局	事務局より委員及び事務局職員を紹介し、各委員より挨拶。
	７．議事
会　長	会長より会議録署名員として、中村委員、附田委員を指名。
中村委員、附田委員	両名了承。
	今後に向けた事業展開等について
	(1) ふるさと納税について
事務局	事務局より資料１を用いて説明
会　長	何か意見があればお願いしたい。
委　員	ふるさと納税を通じ、花壇苗とシクラメンを返礼品として提供し、年々認知度が上がっており、リピーターも増えていると感じているが、花が季節ものであるため、ポータルサイトに通年で掲載が難しい。
市　長	掲載は継続しながら、11月から順次出荷しますという形もあるのではないか。
事務局	他市では、果物等が1年中掲載され、出荷時期に配送される取り扱いもあるので、そのような形の対応も可能である。
会　長	河野委員は、以前、レトルト食品の提供をされていたと思うが何か意見はあるか。
委　員	店内の飲食以外の売上をどう作るかを考え始めたが、物価高騰により、販売価格が高額となってしまったことから、現在ふるさと納税は行っていない。先ほどの説明でも企業訪問を行っていると

	いう話もあったので、是非、そのような中で、アイディアを出していただきながら、ふるさと納税が盛り上がれば良いと感じる。弊社では、冷凍ピザなどの開発により自宅で店舗の味を楽しめるなどの取組みを検討している。
会　長	商品以外のサービスや体験といった返礼品もあるのか。
事務局	吹きガラス体験や飲食店の食事券がある。数は少ないので、ぜひ、河野委員も食事券を実施いただきたい。多くの市内飲食店に参加いただくことで、近隣の方の集客に結び付くのではないかと感じている。
委　員	市内の方は返礼品を受けられないという認識で良いか。
事務局	制度上、市内の方は返礼品を受けられない形となっている。
会　長	事業者間によるコラボ商品はあるのか。
部　長	ものづくり事業者と発信力の強い事業者が連携し開発した商品が返礼品として提供されている。
事務局	コロナ禍において実施した連携補助金を活用し現在に至る。
会　長	2事業者の商品、例えば、なまず御前とおつまみのような形でセットにしていくことは難しいのか。
事務局	制度の制約として産地という部分があり、市内で主な部分を製造していれば問題ないが、仕入れ商品の販売という部分では、市の返礼品とすることは難しい。
部　長	例えば、複数の店舗の共通食事券として提供していくことは可能である。
会　長	なまず御前と生産された商品という形も良いのではないか。
委　員	御前とお猪口などの器という組合せも面白いのではないか。
会　長	体験などをパックとして提供出来たら良いのではないか。
委　員	令和3年度以降は納税額が伸びているが、説明の際に、商品数を増加させたとのことであったが、その因果関係はそれだけなのか。
事務局	商品数を増加させたということは一つの要因と考えている。一方で、全国のふるさと納税の合計額が増加しているので、認知度が高まっているものと感じる。当市の返礼品の上位は、電動自転車や男性用のシャンプーなどの日用品に寄附が集中しており、関心の高い返礼品を登録できているものと考えている。
委　員	魅力的な返礼品を載せていくこと以外で何かやれることはあるのか。
事務局	いかに返礼品をPRすることが出来るかという点と考えている。
部　長	ポータルサイトを増やしていくことも一つである。
委　員	ふるさと納税の件数や寄附額に目標はあるのか。
事務局	3年間の平均で目標値を設定し実績で評価している。
市　長	職員がどれだけ足で稼ぐかというところが重要と捉えている。ポータルサイトをどんなに増やしても、魅力ある返礼品を生み出

	さないと寄附は集まらないので、担当者は、飛び込みで事業所を訪問している。先日、ＥＣサイトを扱っている事業者に話を伺ったところ、ふるさと納税は宣伝費をかけずに自社製品を全国に発信できるツールであり、経営者としては、そこからいかに自社に誘導できるかが鍵であるとの話もあった。そういった観点からもふるさと納税を活用いただければと思う。また、体験型はとても興味深く、これまで検討もしてきたが、例えば、市内で稲刈り体験を返礼品とした場合に、誰がその事業を取りまとめて行うのかなど、難しい部分もある。
	(2) ガイドブック作成について
事務局	事務局より資料2を用いて説明
会　長	前回の冊子では工業に特化しているが、今回は、産業という視点で、農商工を含めていきたいとのことである。何か意見があればお願いしたい。
委　員	この分科会はどのくらいの頻度で進めていく考えか。
事務局	検討していく段階にもよるが、2回から3回程度を想定し、その他各委員と個別の意見聴取なども考えている。
委　員	立候補させていただく。
市　長	分科会の検討の検討事項は、どのような内容とするのか、媒体をどうするか、どう周知していくかという部分であり、実際に取材や編集は外部に委託するということで良いか。つまり基本理念を、部会が中心となり検討していくということで良いか。
事務局	そうである。
委　員	もともと提案した立場であり委員に立候補させていただく。
副会長	産業というそれぞれの分野より選出しては如何か。
委　員	農業の立場、女性の目線で読みやすい、見やすいものにしたいので私も立候補させていただく。
委　員	商業の立場から立候補したい。
事務局	妹尾委員、塩入委員、西山委員、赤出川委員の4名にご協力を頂き、検討を進めていくこととする。後日、日程等を調整する。
市　長	検討事項については、各委員とも共有させていただき、皆さんからも随時、ご意見を頂きたい。
	(3) 産業フェアについて
事務局	事務局より資料3を用いて説明
副会長	ものづくりアワードは商品として販売していなくてもエントリーは可能か。
事務局	可能である。これまでも、商品化されていない製品も多数応募いただいている。各事業者の技術力をアピールいただく視点でエン

	トリーしてほしい。
副会長	以前活用した連携補助金について、市内事業者と職場環境の改善に取り組む事業を展開したが、現在でも、連携した事業者と継続的に企業間交流を行っており、従業員に良い刺激となっている。
会　長	昨年、産業フェアの会場で特に面白いと感じたのは、子どもの職業体験であった。子どもたちが笑顔で応対し、自分たちで考えながら物を売るという形は、他市では無い形であった。
委　員	子どもの職業体験は、子どもたちが楽しみながら行うことができていて良い体験ができていると感じる。
会　長	農業関係での出展等はあるのか。
部　長	女性と農業という視点で、現在、おあしすにパネルを展示しているが、産業フェアでも座談会の実施と販売や試食ブース設ける予定である。
	(4) 就職説明会について
事務局	事務局より資料4を用いて説明
副会長	弊社は、現在ハローワークを通じた採用を行っていない。県内でも地域により、給料水準が約3万円の差がある。小さい中で募集するのではなく、大手の人材の代理店のようなところと連携し行えば参加するが、現在の手法では、魅力は感じられない。
市　長	市外で就職説明会を開催することも一案と感じる。
委　員	ハローワークの性質で、手当をもらうための活動として、そういった取り組みに参加する方も多いと感じる。以前、ハローワーク主催の数千人規模のイベントがあり参加したが、開始直後に1/3程度が帰るという状況であった。そういう方もいるので、企業側の期待値との乖離が生じてしまう。手法を変えても良いのかもしれない。
市　長	必ずハローワークを通さねばならないものなのか。
事務局	あっせん業となり、市単独では行えない。ただ、昨年度は越谷のハローワークからかなり広範囲に渡り募集を賭けたこともあり、多くの来場に繋がった。
市　長	障がい者求人は、地元で行うことに特に意義があると感じているので今後も継続していきたい。また、市では現在、3世代同居等への住宅補助制度を進めており、今は住んでいなくても、今後市内に移住する方への支援としても有効と考えている。
委　員	別のアイディアとなるが、某アイドルグループによる自治体との連携による取組みがありライブを地方で行うことで多くの訪問者があり、その後も聖地巡礼や移住に繋がっている。今後、若い世代に認知されるということを何か考えていきたい。
委　員	若い世代の交流イベントは開催しないのか。行政が行うのは難しいとも感じるので、商工会などで開催いただけると若い世代の

	定住に繋がるのではないか。
委　員	商工会青年部でも10年程度開催したが、後半は顔ぶれが一緒になってしまい、終了してしまった。
事務局	就職説明会の話に戻すと、市だけではなく、県主催の合同就職面接会もあり、参加者、事業者に事業者に周知しているが、市内事業者は、ほぼ参加していない。
会　長	以前参加したことがあるが、県が主催であっても、ハローワークを通じたものであり、あまり変わらない印象であった。大手企業側に流れてしまった印象である。一般の採用に関しては、他の手法が有効と感じる。弊社では、人事コンサルを入れて対応している状況である。
市　長	例えばハローワークでなく、民間の人材会社との連携は可能ということか。
委　員	可能ではあると感じるが、費用という部分で一社あたり40万、50万円となるのではないか。
市　長	今後、何か新しい形を考えていきたい。
	(5) 高校生職場見学バスツアー等について
事務局	事務局より資料5を用いて説明
委　員	対象者は、大学への進学者ではなく、就職希望者が対象ということか。
事務局	バスの乗員の関係もあり、就職希望者を対象とするが、定員に余裕があれば、進学希望者も参加は可能である。
委　員	妻の職場の話であるが、近隣の高校からインターンシップを4日間行っている。現場を体験することで、就職時に良い影響が出ている。特に、若い世代は、実際の現場とのギャップに悩むので、そういった経験が大切と感じる。
市　長	見学だけではなく、体験というのは大切と感じる。市内に、1社では受けられないが、同業種の組合などで受けたいという事業者もあった。
部　長	事務局側でも、高校側と意見交換を重ねているので、委員の皆様より頂いたご意見を伝えていきたい。
会　長	文化祭の件について事務局より説明をお願いしたい。
事務局	昨年度の会議において、中村委員よりご提案頂いた取組みを美南高校と調整したところ、文化祭が、9月7日（土）に行われる。その際、1教室を事業者の出展ブースとして開放する試行的な取組みを行うが、出展の希望をお伺いしたい。おそらく、約6社程度の製品や技術の出展が可能である。
会　長	銀行は如何か。
委　員	就職説明会についても事務局から案内があり、本店に確認した

	が吉川支店への就職は難しい。また、セミナーの開催であれば、これまでも、夏休みを活用した子ども向けのお金教室を開催しているので、調整していきたい。
委　員	昨年度、吉川美南高校で金融教育セミナーを開催させていただいた。資産形成等でニーズは高まっている状況である。これまで、授業のカリキュラムの中で行っていることもあり、今後考えていきたい。
会　長	参加したい事業者は、事務局まで連絡してほしい。
副会長	展示だけでも可能か。
事務局	可能である。
委　員	文化祭と商工会青年部のジャズナイトが同日ということもあり、なかなか調整が難しいかもしれない。
	８．その他
委　員	弊社では、市内の籾殻を50%配合した製品を開発し、給食の食器等の活用を研究している。将来的にはサーキュラーエコノミーとして資源を循環させていく形となるが、店舗等の活用についてご検討いただきたい。
委　員	先日、市民農園のデイキャンプイベントの検討会議が開催された。発端は、昨年度の若者会議で市民農園の有効活用として提案があったものである。現在、会議に参加しており協賛事業者を募集しているので、是非、ご理解ご協力をお願いしたい。
	９．閉会

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和６年７月１２日

署名委員　中村　新一（自署）　　署名委員　附田　健志（自署）